

ライフサイエンスコース 社会医学講座資料

Q1. 何をやるどころ？

A1. 社会医学は、患者個人というよりも、健康な人も含めた全ての人が健康な生活ができるように、社会全体の仕組みを学び、研究する学問です。基本的には疫学 (Epidemiology) という医学研究の手法を用いて研究をします。

Q2. 疫学とはなんですか？

A2. 疫学とは、病気の原因や進行に関わる要因を明らかにするために、人を対象として、その頻度と分布を観察して、それらを分析する学問であり、さらに、明らかになった要因に介入することによって、病気を予防できるかを明らかにする学問でもあります。昨今、ビッグデータ という言葉をよく耳にしますが、まさに、それを扱う学問です。

Q3. 具体的にはどのような研究をしていますか？

A3. 甲州プロジェクトを 25 年間以上続けています。これは母子保健に関する長期縦断研究 (出生コホート研究) です。最近では、妊娠中の喫煙が、低出生体重児の危険因子であるだけでなく、大きくなって、肥満の危険因子となり、それは、思春期にまで影響を及ぼすことを世界ではじめて明らかにしました。

エコチル調査は 2011 年にリクルートを開始した 10 万人の妊婦さんに協力してもらった出生コホート研究の一大国家プロジェクトですが、当講座もこのプロジェクトに参加しています。今年の 3 月にリクルートを終了し、目標数を達成しました。これからが本番です。

Q4. その他にどのようなものがありますか？

A4. 生殖補助医療技術やゲノム科学、脳科学など先端医学と社会との接点に関する研究をしています。その中で、国民の意識調査や研究者の意識調査を行い、国民がこれらの先端技術を活用する際の課題を先取りして、円滑に社会に応用できるようにするにはどうすればよいかを提言することをしています。

また、社会の格差がどのように健康に影響を及ぼすかといった社会疫学研究も行っています。

Q5. どんな知識や技術が身につきますか？

A5. 人の病気や健康状態の原因を明らかにするためにはどのような研究デザインをすれば、科学的で倫理的であり、さらに、実行可能な研究ができるかを導き出す知識と技術が身につきます。さあにそれを実施するための研究ガバナンスも学びます。もちろん、生物統計解析も必須の技術です。

Q6. もっと知りたいときは？

A6. 社会医学講座のホームページを見るか、講座を訪れてください。

以上
社会医学講座 教授 山縣然太郎